



お品書き  
 【その巻】CODEレター VOL.17  
 【その式】プロジェクトNEWS

以上



## CODE 海外災害援助市民センターの目指すもの

芹田 健太郎

CODE 海外災害援助市民センター 代表理事

### 海外の災害支援の核になるものを・・・

CODEの原点は痛みの共有です。震災の年の5月にサハリンで地震があり、こちらは大変でしたが、むこうも大変だから、何が何でもなんとかしようとして物資を持ってきました。

その当時、中心になっていたのは、草地賢一さんが震災3日目に立ち上げた地元NGO救援連絡会議。海外で大きな災害があるたびに、集まって委員会を立ち上げ、被災地に行く。それが6,7年続いたころ、次々と大きな災害が起り、そのたびに委員会を2つも3つも同時につくるのが、手に負えなくなってきました。また委員会もほぼ固定化していましたから、この際、海外災害支援の核になるものと、立ち上げたのがCODEです。

### 最後の一人まで手を差し伸べる

CODEというのは「海外の緊急災害援助に立ち向かう市民たち」という英語の頭文字です。行政や企業に属する人も、学者や専門家、NGOも、一市民として、困難に直面している被災地の人々のところに行くわけです。

そのとき、我々の視点は、弱い人々にあります。震災の年の12月、神戸で開催された「第1回市民とNGOの『防災』国際フォーラム」でもただ単に「人」というのではなく、その人とは弱者である子ども・高齢者・女性・外国人・・・と、具体的に対象をあげていきました。そうしないと、誰が、どんな助けを求めているの

か、見えてこないからです。瓦礫に埋まった人たちを最後の一人まで、手を携えてやっていく。そして、その先にあるのが、暮らしであり、暮らしの再建、ということなのです。

ですから、我々は、災害があれば取りあえず行く、ということはありません。むしろ、少し遅れて現地に入り本当に必要なものは何かを探り出す。それをたとえばどうプロジェクトのように、ある期間、支援し続けるわけです。ですから、あくまでも暮らしを中心に、人々と手をつなぐ。それが我々の目指しているものです。

(CO-OPステーション8月号インタビューより)





# CODE プロジェクトニュース

CODE海外災害援助市民センター  
〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10  
Tel: 078-578-7744 Fax: 078-576-3693  
e-mail: info@code-jp.org  
URL: http://www.code-jp.org/

## イラン地震救援プロジェクト（2003年12月26日～）

事務局スタッフ斉藤容子はイラン・アフガニスタン視察を終了し、無事 6 月 27 日テヘランより合流した村井事務局長と共に帰国致しました。視察報告を掲載させていただきます。

### - 子ども・若者支援 -

今回私が 1 ヶ月間滞在したのは、前回大型テントの支援を決定した AHKK（働く子どもを守る会）というテヘランの NGO のコネックス（簡易コンテナ）です。前回訪れたときは、公園の真ん中でテントを 2 張使って、チャイルドケアセンターを運営していました。今回は大型テントが建てられたこともあり、公園からその目の前にある元血液センター跡地へと場所を移動しています。ここでは大型テント、小型テント 3 張、そして図書室、事務所兼宿泊所コネックスが設置されています。

朝から子どもたちのかけ声が大型テントから聞こえてきました。中を覗いてみると空手着を着た怖そうな先生が子どもたちの前に立って「いち、に、さん」とかけ声をかけています。それに合わせて子どもたちも右腕、左腕を前に突き出し、先生の「じゅう」という大きなかけ声で「てやー！」と大声を上げているのです。そして「押忍！」と言って終了。人気の空手教室でした。先生にお話を伺うと 10 年以上も空手を習われており、ここで子どもたち向けクラスと青年空手クラスを開いておられました。

その他にも、ここでは幼稚園、英語クラス、体育クラス、音楽クラス、エアロビクスなどがあり、午前と午後に分けてクラスが行われています。

常駐しているのはテヘランからのバタニさん、そして音楽担当のサイド君ですが、勤務時間帯には幼稚園を担当するアソニーさん、カウンセリングと図書担当のモジューデさん、そして英語担当のアレズさんが滞在しています。

### - コミュニティセンター建設に向けて -

現在 AHKK が活動するのは既に述べたように元血液センター跡地という保健省管轄の土地です。いずれはここをでなければならぬという状況にあります。しかし、この地域の人々、特に現在は子どもたちにとって、ここはなくてはならない場となっていることは確かです。また女性たちの場としても利用してもらえるように現在は準備中です。

そこで、CODE ではこの大型テントが地域の人々にとって復興の中心となるような恒常的なコミュニティセンターが建てられないかと模索をしてきました。まずこの場所から近いところに土地を確保することが恒常的な建物を建てるためには必要です。地震後、すべての家族が亡くなってしまった方の親族が土地を NGO やモスクに無償で提供するということが頻繁に行われているようで、一度その話を聞き、お願いに行くと既にモスクへ寄贈してしまった後でした。イスラム圏独自の精神と言えるのでしょうか。今回の滞在中には見つけることはできなかったものの引き続き、土地探しは続いています。またその間にも新たな女性たちによる参加もあり、彼女たち自身が恒常的なセンターがほしいと願ってくれるようになれば理想だと思っています。



空手教室



英語教室

### - サイド音楽教師養成トレーニング -

既に前回のプロジェクトニュースでも名前は出てきているサイド君ですが、彼は元々第 2 次視察の私たちの通訳でした。しかし、テヘランで幼稚園の音楽先生でもあり、また月に数回は病院へ行って音楽セラピーとして音楽の楽しさを教えているため、私たちの視察が終了した後も何度か被災地を訪ね、音楽教室を開いてきていました。そして 6 ヶ月間バムに滞在することを決め、今は AHKK で音楽教室を開いています。ここイランでは学校では音楽の授業がありません。ギターや古楽器などイランの人は好きだということですが、サイドのように幼稚園向きの音楽をできる先生は多くはいません。いつも小さな鉄琴を使って子どもたちに音楽の楽しさを教えているといった感じの彼の音楽クラスは大人気です。



音楽教室

しかし、彼がずっとこちらにいることはできず、いつかはテヘランへ戻らねばなりません。そこで彼は幼稚園の先生を対象に音楽教師養成トレーニングをしたいと提案をしました。これは CODE と AHKK が 6 ヶ月間の契約をし、サイドを教師として雇うという形をとっています。早速、バタニさんが福祉局で行われていた幼稚園の先生トレーニング教室でこのことを告げると多くの先生がやりたいと言っていました。しかし時間的にも場所的にもすべての人をというわけにはいきませんので、サイドが面接をせずには 25 人ほどから教えるということになったようです。CODE はこの教師トレーニングに対して AHKK へのコネックス提供、先生用トレーニング楽器等の提供を行います。

### - 市内の様子 -

最初の目に入ったのは瓦礫の山ばかりでした。正直「何も変わってないじゃないか」と少し期待を持っていたためのがっかりとも感じました。しかしよく見てみると、ロータリーに並ぶ店は確実に増えています。中でもよく目にするのはテントで経営される男性用散髪屋さん。更に市内に車を走らせていると、私の最初に持った印象は間違いだったということに気づいたのです。町は何も変わっていないことはなく、人々は確実に動きだしています。スコップを手に持ち、そしてトラクターに乗り込み、男性たちが新たな街の再建に取り組んでいる姿を見ることができました。

現地は真夏となり毎日 40 度にもなる暑い毎日です。テントから仮設住宅へ移る人たちもでてきました。しかし、未だ多くの人たちがテントで暮らしているのも現状です。子どもたちの心の問題、女性たちの問題、雇用の問題等々、抱える問題は際限なく挙げられるでしょう。しかし、その中でより良い街をと復興に汗を流している人たちがいます。阪神・淡路大震災からの教訓を伝えるという大きな使命の一つとしている CODE として、この 10 年で学んだ多くのことを現地へ伝えていきたいと思えます。そして、同時に彼らと共に学んでいければと思います。今後とも皆様のご協力を宜しくお願い致します。

== お詫びと訂正 ==

先月号のプロジェクトニュース、バンコク・スアンブルー地区火災支援の記事において、寄附金額及び日付けに誤りがございました。お詫びして訂正致します。

<以下訂正文>

今回の募金活動で CODE へ寄せられた、みなさまからの寄付金 121,492 円は 6 月 7 日付けで、現地での活動にあっている SVA へお送りいたしました。また、現在も募金活動を継続されております皆さまにつきましては、責任を持って随時 SVA へお送りさせていただきます。今後も SVA からの報告が入り次第お伝えしていきます。ご協力ありがとうございました！

### 募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて通信欄に「イラン地震支援」「アフガニスタン支援」とそれぞれ明記してください。なお募金全体の 15% を事務局運営・管理費に充当させていただきます。

口座番号: 00930 - 0 - 330579

加入者名: CODE

(以上編集：事務局)

CODEの活動は、様々な方のご支援に支えられて行われています。すべての皆様にご報告を直接させていただきますのですが、物理的にも財政的にも制限があり、ホームページやメーリングリストなどを通して広くご報告させていただいております。ご理解のほどよろしくお願い致します。

当センターのホームページ <<http://www.code-jp.org>> にも同様のものをアップしております。

(以上編集：事務局)

